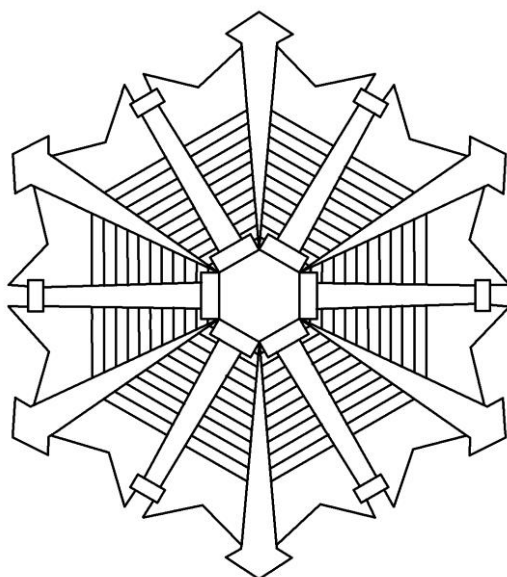


消防現況

令和4年版



久万高原町消防本部



= 目 次 =

◇ 火災編	1
◇ 救急編	7
◇ 救助編	23
◇ 予防編	27



火 災 編



お出かけは マスク戸締り 火の用心

久万高原町内の火災の実態

1. 火災の状況

(1) 地区別火災発生状況

管内における令和4年の火災発生件数は、久万地区5件、美川地区、面河及び柳谷地区は0件で、前年より6件増加している。

第1表 地区別火災発生状況

区分	単位	久万高原町								合計	
		久万地区		面河地区		美川地区		柳谷地区		令和3年	令和4年
		令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年	令和3年	令和4年		
出火件数		2	5			2	5			4	10
建物 林野 車両 その他	件	1					3			1	3
			1								1
		1				2	1			3	1
			4				1				5
損害額		2,063	1,583			700	4,910			2,763	6,493
建物 林野 車両 その他	千円	1,759					3,743			1,759	3,743
			771								771
		304				500	1,167			804	1,167
			812			200				200	812
焼損棟数	棟	1					4			1	4
り災世帯数	世帯	1					1			1	1
り災人員	人	1					1			1	1
死者 負傷者	人										
出火率	%									5.2	13.1

(2) 四季別の火災発生状況

四季別火災件数をみると、春季4件、冬季3件で全体の7割を占める火災が発生している。

第2表 四季別火災発生件数及び損害額

年 別 季 別	令和3年			令和4年		
	火災件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)	火災件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)
春季(3月～5月)				4	40.0	1,583
夏季(6月～8月)	1	25.0	1,759	1	10.0	1,167
秋季(9月～11月)	1	25.0	304	2	20.0	3,213
冬季(12月～2月)	2	50.0	700	3	30.0	530
合 計	4	100.0	2,763	10	100.0	6,493

(3) 建物火災の状況

第3表 建物火災の状況

月 日	地 区	出火元の用途	焼損棟数	焼損程度	焼損床面積	焼損表面積
2月 3日	美川	不明	1	全焼	52 m ²	0 m ²
2月 26日	美川	倉庫	1	全焼	22 m ²	0 m ²
11月 15日	美川	倉庫	2	全焼	235 m ²	0 m ²

(4) 覚知方法

第4表 覚知方法別件数

覚知方法	火災報知専用電話 (固定電話)	火災報知専用電話 (携帯電話)	加入電話	事後聞知	合計
件数(件)		7		3	10

(5) 時間帯別の火災発生状況

第5表 時間帯別出火件数

時間帯	4時～10時	10時～16時	16時～22時	22時～4時	合計
件数(件)		7	3		10

2. 火災による死傷者の状況

令和4年中に発生した火災で負傷者が2名発生。死者については、平成29年5月から発生していない。

3. 初期消火

令和4年中に発生した火災（10件）のうち、初期消火は7件（水バケツ、粉末消火器、汲み置き等の水をかけた、もみ消し、その他）実施されている。なお、7件中2件の火災において、初期消火を効果的に行えている。

4. 出火原因

第6表 火災別発火源・経過・着火物

火災種別	月日	発火源	経過	着火物
建物	2月 3日	不明	不明	不明
建物	2月 26日	石油ストーブ	引火	第1石油類
その他	2月 28日	火のついたゴミ	容器から火種がこぼれる	枯草
その他	3月 5日	枯草焼き	火の粉が散る遠くへ飛火する	枯草
その他	3月 10日	枯草焼き	火の粉が散る遠くへ飛火する	枯草
林野	3月 17日	枯草焼き	火の粉が散る遠くへ飛火する	枯草
その他	4月 17日	枯草焼き	その他	衣類
車両	6月 7日	配線	スパーク	その他
その他	10月 20日	不明	不明	その他
建物	11月 15日	消し炭	火源の収納	その他

令和4年 火災一覽表

火災番号	出火月日	出火種別	出火場所	出火時刻	覚知時刻	鎮火時刻	天候	風速	湿度	火元用途	構造燃焼物	焼損程度			死傷者		焼損面積			損害額 (千円)	出火原因			
												全焼	半焼	部分焼	ぼや	世帯	人員	死者	負傷者			床面積 (㎡)	表面積 (㎡)	林野 (a)
1	2/3	建物	美川地区	17:00	2/15 13:30	不明	曇り	0.6 m/秒	71.6 %	不明		1					52			422	不明			
2	2/26	建物	美川地区	11:00	3/1 14:45	不明	晴れ	1.2 m/秒	40.0 %	倉庫		1				1	22			108	可燃性蒸気が、石油ストーブに引火したものの。			
3	2/28	その他	久万地区	15:46	16:03	16:40	曇り	4.3 m/秒	27.8 %	敷地内の 枯草							194				火のついたゴミが地面にこぼれ落ち、 枯草に燃え移り出火したものの。			
4	3/5	その他	久万地区	16:24	16:34	17:07	晴れ	2.1 m/秒	23.0 %	農地							1,161			812	枯草の焼却中に飛び火し、出火したものの。			
5	3/10	その他	久万地区	12:10	12:41	13:20	晴れ	1.4 m/秒	27.5 %	農地							3,145				枯草の焼却中に飛び火し、出火したものの。			
6	3/17	林野	久万地区	10:50	11:23	12:05	晴れ	0.8 m/秒	23.8 %	人工林								34		771	枯草の焼却中に飛び火し、出火したものの。			
7	4/17	その他	美川地区	20:00	22:51	20:10	晴れ	0.7 m/秒	58.7 %	田畑					1							剪定枝等の焼却中、衣類に着火したものの。		
8	6/7	車両	美川地区	10:56	11:06	11:47	曇り	3.1 m/秒	55.9 %	林業機械										1,167	配線がスパークし、堆積していた杉葉 やオイルに着火し出火したものの。			
9	10/20	その他	久万地区	15:00	17:21	17:42	晴れ	0.4 m/秒	73.8 %	田畑							158				不明			
10	11/15	建物	美川地区	15:20	15:45	17:50	晴れ	1.3 m/秒	53.7 %	倉庫		2					235			3,213	消えたと考えた酒し酌を段ボール箱に 収納したため、段ボールに着火し出火 したものの。			
合計												4			1	1	2		309	4,658	34		6,493	

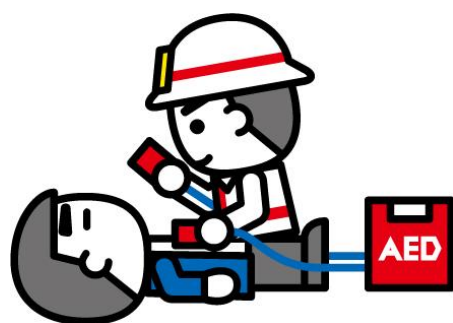
※焼損程度解説

- 全焼
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の70%以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。
- 半焼
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20%以上のもので全焼に該当しないものをいう。
- 部分焼
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20%未満のものでぼやに該当しないものをいう。
- ぼや
建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10%未満であり焼損床面積が1㎡未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の評価額の10%未満であり焼損表面積が1㎡未満のもの又は収容物のみ焼損したものをいう。

地区別火災発生一覧表(平成17年～令和4年の総数)

区分 地区	出火件数				焼損面積			焼損 棟数	り災		死傷者		損害額 千円
	統計	建物	林野	他	床面積(㎡)	表面積(㎡)	林野(a)		世帯	人員	死者	傷者	
久万地区	62	30	13	19	1,537	4,852	236	36	15	26	0	2	45,655
東明神	6	2		4	50	194	13	2					954
西明神													
入野	6	4		2	244		8	3	3	3		1	4,661
久万	7	7			243	7		8	8	13			5,761
野尻	7	4		3	1	101		4					3,418
菅生	8	3	2	3	165	1,195	39	5	1	3			10,901
上畑野川	5	1	4		112		46	1					2,153
下畑野川	3		1	2			42						595
直瀬	10	3	3	4	192	3,313	14	4				1	884
父野川	1		1				68						252
露峰	4	2	1	1	164			2	1	4			7,127
二名	5	4	1		366	42	6	7	2	3			8,949
面河地区	7	4	2	1	785	128	248	17	7	12	1	1	14,162
相の木	1			1									803
笠方	1		1				1						1
前組	2	1	1		294		247	5	1	3	1		3,583
渋草・大成 中組・本組 若山	3	3			491	128		12	6	9		1	9,775
美川地区	31	22	3	6	2,276	97	194	45	15	31	1	3	53,593
有枝													
大川	3	2		1	145	32		3	1	3			2,491
上黒岩	4	2	1	1	4			2					639
中黒岩													
沢渡	1			1									1,822
日野浦	7	6	1		843	11	8	15	4	6	1	1	19,836
仕出	2	1		1	30	17		3					1,819
七鳥	5	4		1	228	23		5	3	9			5,542
東川	6	5		1	532	14		11	5	10		2	13,259
黒藤川	3	2	1		494		186	6	2	3			8,185
柳谷地区	11	10	1	0	1,290	100	10	28	8	13	0	3	26,366
柳井川	5	4	1		387	59	4	9	3	5		3	6,291
西谷	4	4			783	41	6	14	4	6			12,845
中津	2	2			120			5	1	2			7,230
久万高原町	111	66	19	26	5,888	5,177	688	126	45	82	2	9	139,776

救 急 編



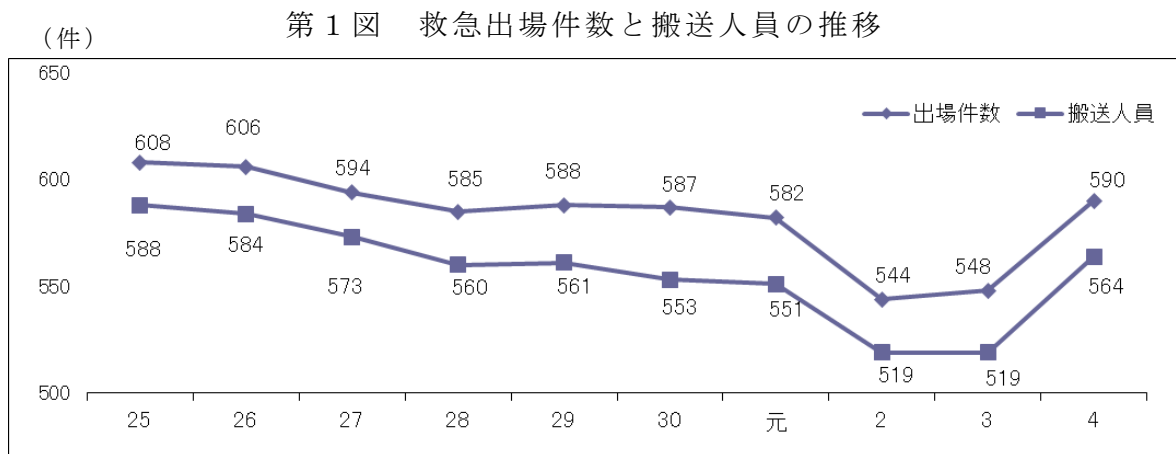
ひとりひとりが 救命のワンピース

1 救急業務の実施状況

1. 救急出場件数および搬送人員…町民 13 人に 1 人を搬送

令和 4 年の救急出場件数は 590 件（増減率 7.7% (42 件増)）、搬送人員は 564 人（増減率 8.7% (45 人増)）。1 日平均出場件数は 1.61 件（前年 1.50 件）となっており、1 年間に町民（令和 4 年 4 月 1 日現在の人口 7,574 人）13 人（前年 15 人）に 1 人が救急搬送されたこととなる。

（第 1 図、第 1 表参照）



※過去 10 年間の久万高原町の統計

第 1 表 年別救急活動の比較

年	救急出場件数		搬 送 人 員	
	件数	前年増減率	人員	前年増減率
25	608	▲0.3	588	▲0.9
26	606	▲0.2	584	▲0.7
27	594	▲2.1	573	▲1.9
28	585	▲1.5	560	▲2.3
29	588	0.5	561	0.2
30	587	▲0.2	553	▲1.4
元	582	▲0.9	551	▲0.4
2	544	▲6.5	519	▲5.8
3	548	0.7	519	0
4	590	7.7	564	8.7
累計	5,832	—	5,572	—

2. 事故種別救急出場件数および搬送人員

出場件数 590 件を事故種別で見ると、急病 266 件 (45.1%)、次いで転院搬送 162 件 (27.5%)、一般負傷 103 件 (17.5%) となっており、上位 3 種別で全体の 90.1% を占めている。(第 2 表参照)

また、搬送人員 564 人を年齢区分別に見ると、高齢者が 425 人で全体の 75.4% を占めている。(第 3 表参照)

第 2 表 事故種別救急出場件数および搬送人員

事故種別	令和4年中		令和3年中		対前年比	
	出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病	266	45.1%	251	45.8%	15	6.0%
	249	44.1%	238	45.9%	11	4.6%
一般負傷	103	17.5%	101	18.4%	2	2.0%
	98	17.4%	91	17.5%	7	7.7%
交通事故	34	5.8%	27	4.9%	7	25.9%
	36	6.4%	27	5.2%	9	33.3%
労働災害	12	2.0%	9	1.6%	3	33.3%
	11	2.0%	7	1.3%	4	57.1%
自損行為	6	1.0%	4	0.7%	2	50.0%
	3	0.5%	1	0.2%	2	200.0%
火災			1	0.2%	▲ 1	-100.0%
			1	0.2%	▲ 1	-100.0%
加害						
運動競技	2	0.3%	3	0.5%	▲ 1	-33.3%
	2	0.4%	3	0.6%	▲ 1	-33.3%
水難	2	0.3%	1	0.2%	1	100.0%
	1	0.2%	1	0.0%	0	0.0%
自然災害						
転院	162	27.5%	149	27.2%	13	8.7%
	161	28.5%	149	28.7%	12	8.1%
その他	3	0.5%	2	0.4%	1	50.0%
	3	0.5%	1	0.2%	2	200.0%
合計	590	100.0%	548	100.0%	42	7.7%
	564	100.0%	519	100.0%	45	8.7%

第3表 年齢区分別事故種別搬送人員

(564人)

年齢区分 事故種別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
急病		4 1.6%	4 1.6%	37 14.9%	204 81.9%	249 44.1%
一般負傷		3 3.1%	2 2.0%	22 22.4%	71 72.5%	98 17.4%
交通事故			3 8.3%	22 61.1%	11 30.6%	36 6.4%
転院			1 0.6%	26 16.1%	134 83.3%	161 28.5%
その他			3 15.0%	12 60.0%	5 25.0%	20 3.6%
計		7 1.2%	13 2.3%	119 21.1%	425 75.4%	564 100.0%

第4表 月別・事故種別救急出場件数

(590件)

月 事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	25	19	24	24	19	23	14	26	19	25	17	31	266
一般	8	11	6	9	8	4	10	12	7	14	5	9	103
交通	0	1	1	6	2	3	2	8	3	6	2	0	34
その他	0	0	1	2	2	3	2	2	3	1	7	2	25
転院	12	19	10	9	11	14	13	17	17	13	13	14	162
計	45	50	42	50	42	47	41	65	49	59	44	56	590

第5表 曜日別救急出場件数

(590件)

曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
出場件数	94	85	85	76	79	85	86	590

第 6 表 時間帯別・事故種別出場件数

(590 件)

時間 事故種別	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他		計
											転院	その他	
0～2				2			1			8	4		15
2～4							1			9	2		12
4～6				1			4			14			19
6～8							6			20	1		27
8～10				2			12		1	25	27		67
10～12				2	5	1	23		1	40	32		104
12～14				6	3		11			21	28	1	70
14～16				9	4	1	13			37	20	1	85
16～18				4			9		1	30	26		70
18～20			1	5			13		1	31	11		62
20～22			1				8		2	16	6	1	34
22～24				3			2			15	5		25
計	0	0	2	34	12	2	103	0	6	266	162	3	590

第 7 表 住居区分別・事故種別搬送人員

(564 人)

住居区分 事故種別	急病	一般負傷	交通事故	転院	その他	計
町内居住者	230	67	14	153	9	473
	92.4%	68.4%	38.9%	95.0%	45.0%	83.9%
町外居住者	19	31	22	8	11	91
	7.6%	31.6%	61.1%	5.0%	55.0%	16.1%
計	249	98	36	161	20	564
	44.2%	17.4%	6.4%	28.5%	3.5%	100.0%

第 8 表 発生場所別・事故種別搬送人員

(564 人)

事故種別 発生場所	急病	一般負傷	交通事故	その他	計
住 宅	195	51		4	250
	78.3%	52.1%		2.2%	44.2%
公衆出入場所	33	15	1	3	52
	13.3%	15.3%	2.8%	1.7%	9.2%
仕 事 場	4	2		7	13
	1.6%	2.0%		3.9%	2.5%
道 路	11	12	34	4	61
	4.4%	12.2%	94.4%	2.2%	10.8%
そ の 他	6	18	1	2	27
	2.4%	18.4%	2.8%	1.1%	4.8%
病院（転院）				161	161
				88.9%	28.5%
計	249	98	36	181	564
	44.1%	17.4%	6.4%	32.1%	100.0%

3. 医療機関別搬送人員の状況

救急搬送人員 564 人中、救急告示医療機関への搬送は 493 人（87.4%）、救急告示医療機関以外への搬送は 71 人（12.6%）となっている。

（第 9 表、第 10 表参照）

第 9 表 開設区分・告示区分別搬送人員

（564 人）

開設区分 告示区分	医 療 機 関					計	その他の場所		計
	国 立	公 立	公 的	私的病院	私的診療所		ドクターヘリ 消防中継 防災ヘリ中継	警察等	
救急告示	30	258	74	131		493			493
	(30)	(46)	(74)	(131)		(281)			(281)
非告示		11		6	34	51	20		71
		(11)		(6)	(0)	(17)			(17)
計	30	269	74	137		510	20		564
	(30)	(57)	(74)	(137)		(298)			(298)

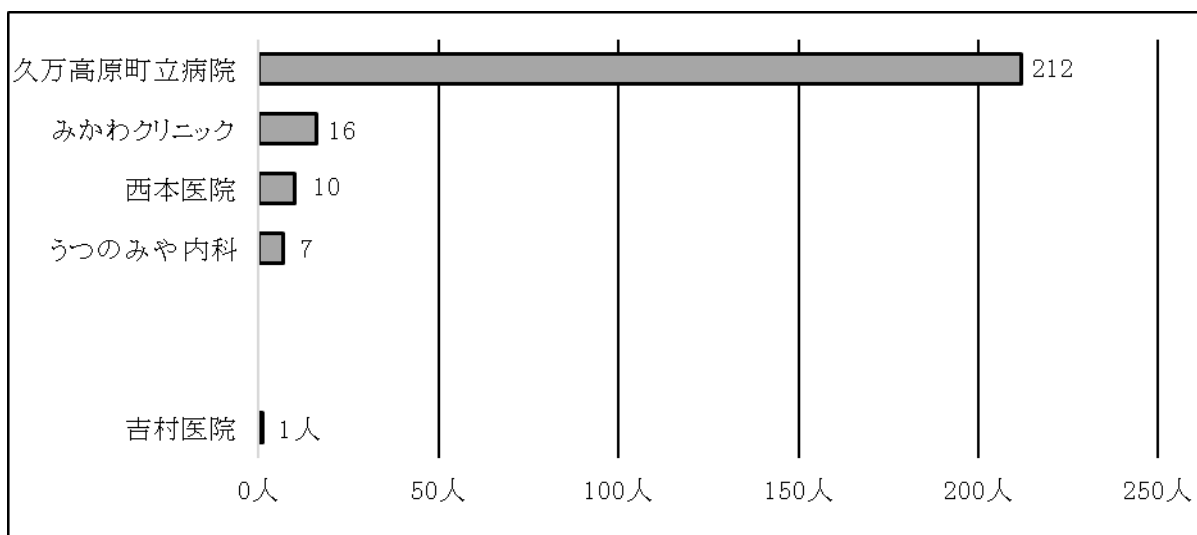
注 1. () は管外の医療機関に搬送された人員である

管内医療機関に搬送された 246 人（43.6%）について、医療機関別の状況は、久万高原町立病院 212 人（86.2%）、みかわクリニック 16 人（6.5%）、西本医院 10 人（4.1%）、うつのみや内科 7 人（2.8%）、吉村医院 1 人（0.4%）となっている。管外医療機関に搬送された 318 人（56.4%）のうち、転院搬送人員は 157 人で管外搬送人員の約 50%を占めている。

（第 2 図、第 10 表参照）

第 2 図 管内医療機関別収容人員

（246 人）



第 10 表 医療機関別搬送人員一覧表

(564 人)

管内医療機関	医療機関名		開設	人員	内転院
	告示	久万高原町立病院	公立	212	3
	社団昇和会西本医院	私的	10		
非告示	みかわクリニック	私的	16	1	
	うつのみや内科	私的	7		
	吉村医院	私的	1		
合計			246	4	
管外医療機関	救急告示	国立病院機構愛媛医療センター	国立	29	7
		愛媛大学医学部附属病院	国立	1	
		愛媛県立中央病院	公立	44	34
		松山赤十字病院	公的	44	27
		済生会松山病院	公的	30	17
		椿原町立国民健康保険椿原病院	公的	2	
		松山市民病院	私的	27	13
		南松山病院	私的	19	8
		野本記念病院	私的	19	5
		平成脳神経外科病院	私的	17	9
		梶浦病院	私的	13	5
		愛媛生協病院	私的	12	5
		奥島病院	私的	12	5
		笠置記念病院	私的	6	4
		松山城東病院	私的	3	1
		渡辺病院	私的	2	1
		松山まどんな病院	私的	1	
		合計			281
非告示	救命救急センター	公立	11	7	
	その他県内	私的	6	4	
合計			17	11	
特殊	ドクターヘリ(県外ドクターヘリ含む)		18	5	
	他消防機関(消防防災ヘリ)へ中継		2		
	久万高原警察署・その他				
総計			564	161	

4. 傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度を重症度順に見ると、死亡 26 人（4.6%）、重症 79 人（14.0%）、中等症 276 人（49.0%）、軽症 183 人（32.4%）となっている。

また、年齢区分別に傷病程度を見ると、重症以上は成人 15%（死亡 2.5%、重症 12.6%）高齢者 20.2%（死亡 5.4%・重症 14.8%）である。

（第 11 表、第 12 表参照）

第 11 表 事故種別傷病程度 (564 人)

傷病程度 事故種別	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	19	34	114	82		249
	7.6%	13.7%	45.8%	32.9%		44.1%
交通事故	2	2	7	25		36
	5.6%	5.6%	19.4%	69.4%		6.4%
一般負傷	1	10	36	51		98
	1.0%	10.2%	36.7%	52.1%		17.4%
その他	4	33	119	25		181
	2.2%	18.2%	65.8%	13.8%		32.1%
計	26	79	276	183		564
	4.6%	14.0%	49.0%	32.4%		100.0%

第 12 表 年齢区分別傷病程度

傷病程度 年齢区分	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
新生児						
乳幼児			1	6		7
			14.3%	85.7%		1.2%
少年		1	3	9		13
		7.7%	23.1%	69.2%		2.3%
成人	3	15	46	55		119
	2.5%	12.6%	38.7%	46.2%		21.1%
高齢者	23	63	226	113		425
	5.4%	14.8%	53.2%	26.6%		75.4%
計	26	79	276	183		564
	4.6%	14.0%	49.0%	32.4%		100.0%

第 13 表 死亡による不搬送

事故種別	急病		自損		一般負傷		その他		計	
死亡	9件	9人	3件	3人	1件	1人	1件	1人	14件	14人

※搬送拒否、途中帰署等を含めた不搬送件数の総数は 32 件となっている。

5. 急病に係る疾病分類別搬送人員の状況

年齢区分別傷病程度別にみると、中等症以上の高齢者は73.5%（死亡8.8%、重症15.2%、中等症49.5%）と、成人の中等症以上44.7%（死亡2.6%、重症7.9%、中等症34.2%）の約1.6倍となっている。また、疾病分類別傷病程度別にみると、死亡の8人が心疾患に因るものである。（第14表、第15表参照）

第14表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員 (249人)

傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
新生児						
乳幼児			1 33.3%	2 66.7%		3 1.2%
少 年				4 100.0%		4 1.6%
成 人	1 2.6%	3 7.9%	13 34.2%	21 55.3%		38 15.3%
高齢者	18 8.8%	31 15.2%	101 49.5%	54 26.5%		204 81.9%
計	19 7.6%	34 13.7%	115 46.2%	81 32.5%		249 100.0%

第15表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員 (249人)

傷病程度 疾病分類	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
循環系		12 30.0%	23 57.5%	5 12.5%		40 16.1%
	8 26.7%	7 23.3%	7 23.3%	8 26.7%		30 12.0%
消化系		7 24.1%	15 51.8%	7 24.1%		29 11.6%
呼吸系	2 9.5%	4 19.0%	13 62.0%	2 9.5%		21 8.4%
精神系				3 100.0%		3 1.2%
感覚系				1 100.0%		1 0.4%
泌尿系			12 92.3%	1 7.7%		13 5.2%
新生物	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%			3 1.2%
その他 不明確	8 7.3%	3 2.8%	43 39.4%	55 50.5%		109 43.9%
計	19 7.6%	34 13.7%	114 45.8%	82 32.9%		249 100.0%

第 16 表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員 (249 人)

年齢区分 疾病分類		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
循環系	脳疾患				2 5.0%	38 95.0%	40 16.1%
	心疾患				3 10.0%	27 90.0%	30 12.0%
消化系					9 31.0%	20 69.0%	29 11.6%
呼吸系			1 4.8%	2 9.5%	2 9.5%	16 76.2%	21 8.4%
精神系						3 100.0%	3 1.2%
感覚系					1 100.0%		1 0.4%
泌尿系					1 7.7%	12 92.3%	13 5.2%
新生物						3 100.0%	3 1.2%
その他 不明確			3 2.8%	2 1.8%	19 17.4%	85 78.0%	109 43.9%
計			4 1.6%	4 1.6%	37 14.9%	204 81.9%	249 100.0%

6. 現場到着所要時間別出場件数の状況

救急出場件数 590 件のうち、転院搬送 162 件、出場途上辞退 3 件を除く 425 件について現場到着所要時間をみると、現場到着に 10 分以上要したものが 252 件 (59.3%) であった。また、現場到着平均所要時間は 13.1 分 (前年 14.9 分) となっている。(第 17 表参照)

第 17 表 現場到着所要時間別・事故種別出場件数 (425 件)

現場到着 所要時間 事故種別	現場到着所要時間					計	現場到着 平均時間
	3分未満	3分～ 5分未満	5分～ 10分未満	10分～ 20分未満	20分以上		
急病	1	15	94	93	60	263	12.4
交通			11	15	8	34	14.2
一般負傷		5	40	33	25	103	14.7
その他			7	10	8	25	11.9
計	1	20	152	151	101	425	13.1
転院	8	28	103	18	4	161	6.1
総計	9	48	255	169	105	586	11.2

※全国の統計 (令和 4 年版消防白書) では、現場到着所要時間は平均 9.4 分となっている。

7. 収容所要時間別搬送人員の状況

搬送人員 564 人のうち、転院搬送 161 人を除く病院収容した 403 人についての収容所要時間別（覚知～医療機関などに引き継ぐまでに要した時間）の状況は、60 分以上～120 分未満が最も多く 163 人（40.4%）であった。30 分以上が 312 人（77.4%）及び収容平均所要時間が 55.9 分（前年 53.5 分、2.4 分増）で長時間の救急活動となる場合が多くなっている。（第 18 表参照）

第 18 表 収容所要時間別・事故種別搬送人員の状況

(403 人)

収容所要時間 事故種別	10分未満	10分～20分未満	20分～30分未満	30分～60分未満	60分～120分未満	120分以上	計	収容平均所要時間
急病		13	50	92	88	6	249	54.0
交通		1	3	12	20		36	53.0
一般負傷		5	14	27	46	6	98	60.8
その他			5	6	9		20	60.5
計		19	72	137	163	12	403	55.9
転院		5	1	126	29		161	52.8
総計	0	24	73	263	192	12	564	55.0

※全国の統計（令和 4 年版消防白書）では、収容所要時間は平均 42.8 分となっている。

第 19 表 ドクターヘリ要請状況

年	平成29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
件数	17	20	13	12	11	18

第 20 表 ドクターカー要請状況

年	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
件数	3	1	4	7	1	6	4	3	1	1	0	0	0

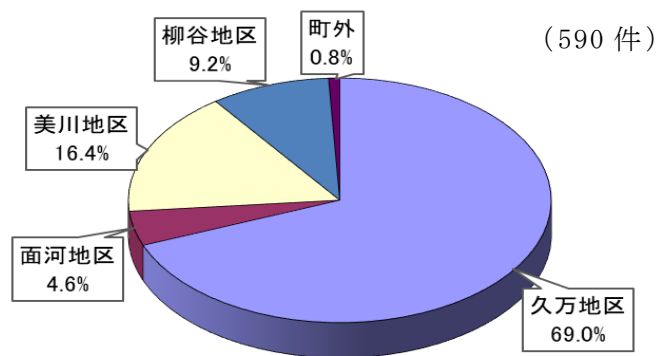
第 21 表 救急隊員の行った応急処置状況

事 故 種 別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員	249	36	98	181	564
止 血	1		14		15
固 定	1	14	15	15	45
人 工 呼 吸	8	1	1		10
酸 素 吸 入	67	4	9	49	129
保 温	71	4	18	37	130
被 覆		1	21	4	26
胸 骨 圧 迫	8	2	1	2	13
心 肺 蘇 生	14	2	1	2	19
* うち自動式心マッサージ器	2				2
* 在宅療法継続	1				1
* ショックパンツ					
* 血 圧 測 定	228	30	93	176	527
* 心音呼吸音聴取	16	3	2	8	29
* 血中酸素飽和度測定	230	30	92	176	528
* 心電図測定等	130	7	14	64	215
気 道 確 保	16	2	1	4	23
* うち経鼻エアウェイ	2				2
* うち喉頭鏡・鉗子等					
◎* うちラリングアルマスク等	6			1	7
◎* うち気管挿管					
* 除 細 動	1				1
◎* 静 脈 路 確 保 CPA前					
◎* 静 脈 路 確 保 CPA後	2				2
◎* 薬 剤 投 与 アドレナリン					
◎* 薬 剤 投 与 ブドウ糖					
◎* 血 糖 測 定					
そ の 他	242	32	96	180	550
合 計	1,046	132	378	718	2,274
* 拡大された応急処置等	618	70	201	425	1,314
◎うち特定7項目	8			1	9

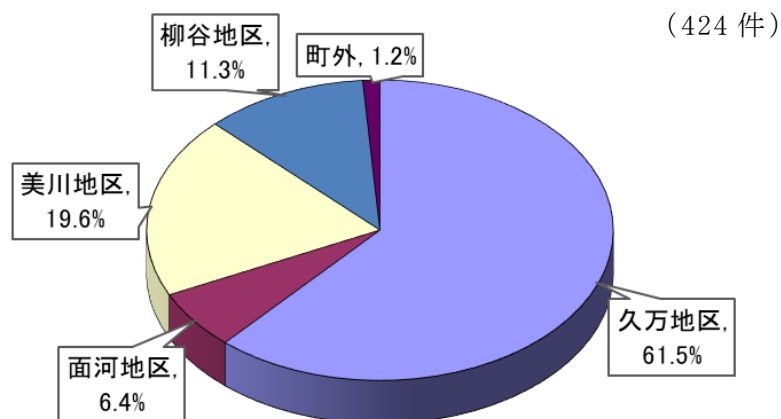
第 22 表 地区別救急出場件数の増減

地区 件数	久万高原町					町外	計
	全 体	久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区		
令和4年	590	407	27	97	54	5	590
	100.0%	69.0%	4.6%	16.4%	9.2%	0.8%	100.0%
うち転院を除く	424	261	27	83	48	5	424
	100.0%	61.5%	6.4%	19.6%	11.3%	1.2%	100.0%
令和3年	548	362	41	97	42	6	548
増 減	42	45	▲ 14	0	12	▲ 1	42
増 減 率	7.7%	12.4%	▲34.1%	0.0%	28.6%	-16.7%	7.7%

第 3 図 地区別救急出場件数



第 4 図 転院を除く地区別救急出場件数



第 23 表 普通救命講習 I 実施状況

番号	受講日	講習時間	受講団体名	受講者数	修了証 交付者数	派遣人員
1	5月 30日	3:00	高齢者福祉施設	13	13	2
2	6月 4日	3:00	防災士養成講座	4	4	1
3	6月 16日	3:00	町内林業従事者	3	3	2
4	6月 30日	3:00	高齢者福祉施設	11	11	2
5	7月 8日	3:00	町内中学生	2	2	2
6	8月 27日	3:00	防災士養成講座	19	19	2
7	9月 3日	3:00	防災士養成講座	11	11	2
8	9月 9日	3:00	防災士養成講座	13	13	2
9	9月 10日	3:00	防災士養成講座	17	17	2
10	9月 11日	3:00	町内鹿猟従事者	9	9	2
合計			10団体	102	102	19

第 24 表 救命講習修了者一覧

(平成 5 年からの累計)

	合計	官公庁	消防団	女性防火 クラブ	会社 事業所	学校	その他
上級救命講習	568	36	394	56	15	23	44
普通救命講習	6,373	363	462	274	979	3,289	1,006
総修了者数	6,941	399	856	330	994	3,312	1,050

8. 応急手当・口頭指導の実施状況

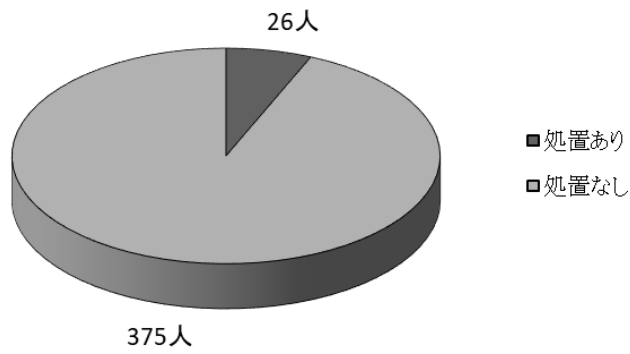
(1) 応急手当の実施状況

令和 4 年中の搬送人員 564 人のうち、転院搬送及びその他（中継搬送）の 163 人を除く 401 人について、救急隊到着以前の応急手当の実施についてみると 25 人（6.2%）が応急手当を受けており、令和 3 年（369 人中 28 人・7.6%）と比較して減少している。また、事故種別ごとの応急手当の実施についてみると、急病において 12 人（48%）と最も多くなっており、次いで一般負傷 8 人、交通事故 2 人となっている。

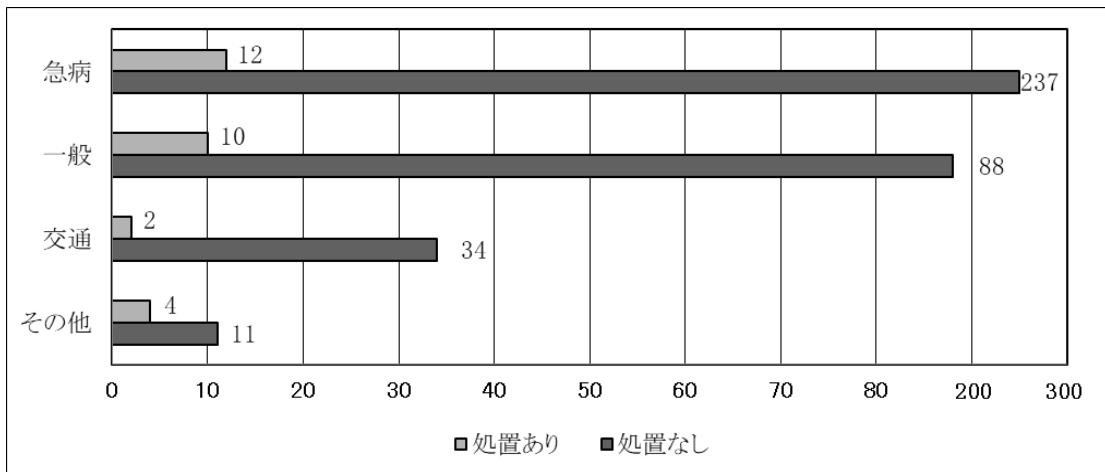
応急手当の内容を見ると、胸骨圧迫 11 件、止血 10 件、被覆 4 件、AED 使用 3 件（うち 1 件除細動実施）、固定 1 件、となっており、応急手当の実施者については家族が 46%を占めている。（第 5・6・7・8 図参照）

第5図 応急手当実施状況

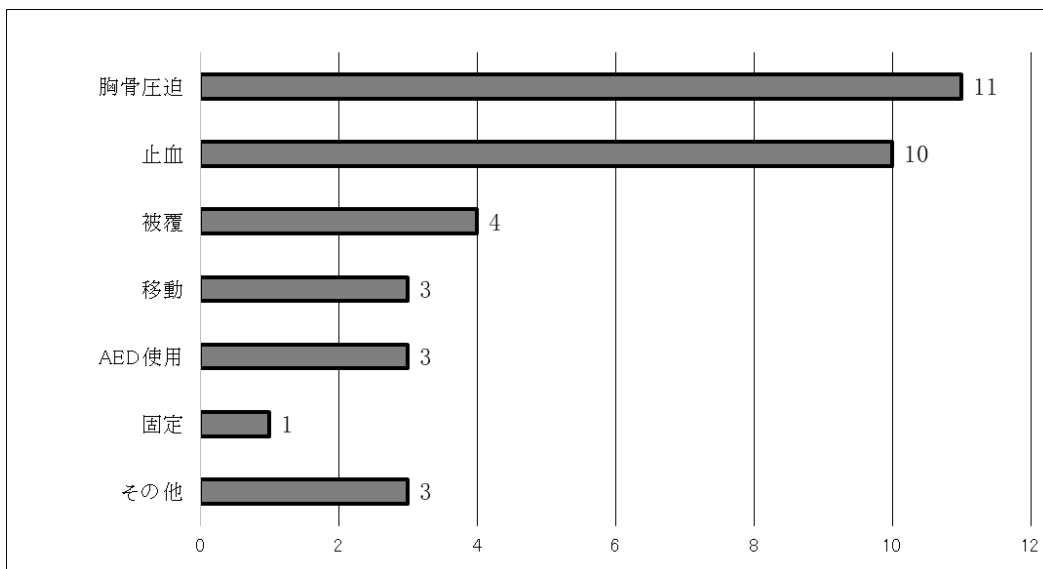
(401人)



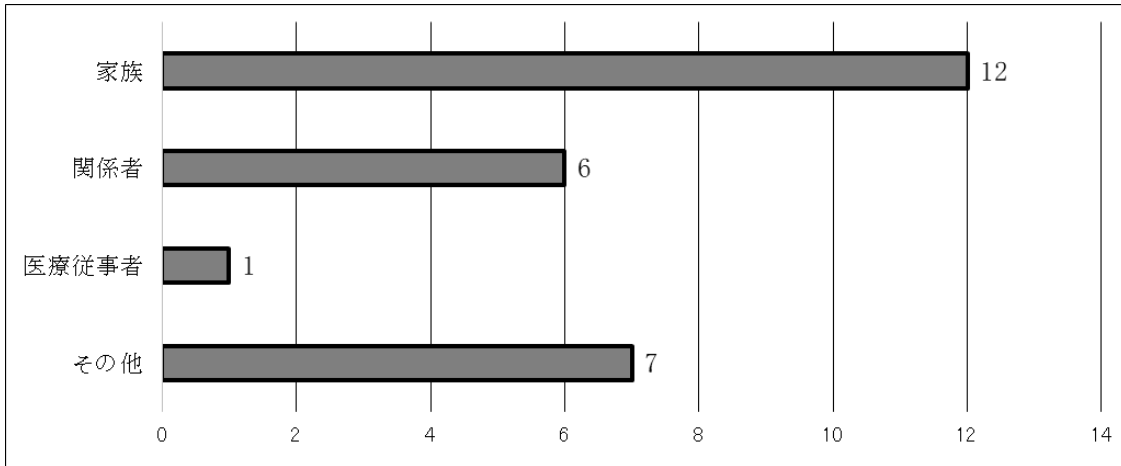
第6図 事故種別別応急手当実施状況



第7図 応急手当内容



第 8 図 応急手当実施者



(2) 救急通報受信中における通報者等に対する応急手当の指導（以下、口頭指導という）状況について

令和 4 年中の搬送人員 564 人のうち、転院搬送及びその他（中継搬送）の 163 人を除く 401 人について、口頭指導を実施した件数は 48 件、指導合計数は 48 件であった。また、口頭指導による応急手当の実施は 44 件（91.6%）、未実施は 4 件（8.3%）となっている。

（第 25 表参照）

第 25 表 口頭指導状況

口 頭 指 導 の 項 目	指導件数
止血・被覆などに関するもの	22件
胸骨圧迫・人工呼吸などに関するもの	20件
AEDの準備などに関するもの	1件
その他（異物除去・冷却・意識確認・体位管理）	7件
合 計	50件

※指導回数には複数項目の場合が存在するため回数と件数は一致しない。

第 26 表 久万高原町内 AED 設置箇所状況 (総設置箇所 68 箇所)

久万地区		25	うつのみや内科	5	面河診療所
1	久万高原町役場(本庁)【寄贈】	26	高橋歯科医院	6	消防団多機能車両(里成)
2	久万B&G海洋センター	27	わたなべ歯科医院	7	面河山岳博物館
3	養護老人ホーム「ささゆり荘」	28	ICランド土居	美川地区	
4	老人保健施設「あけぼの」	29	道の駅「天空の郷さんさん」	1	久万高原町役場(美川支所)
5	久万高原町産業文化会館	30	道の駅防災センター	2	美川小学校
6	久万高原町教育委員会	31	久万カントリークラブ	3	仕七川小学校
7	久万小学校	32	高原ゴルフクラブ	4	美川中学校
8	直瀬小学校	33	入野福祉館	5	岩屋寺【私設置】
9	明神小学校	34	農業公園アグリピア	6	仕七川駐在所
10	父二峰小学校	35	大宝寺【私設置】	7	美川中学校「若竹寮」
11	畑野川小学校	36	久保建設【私設置】	8	みかわクリニック
12	久万中学校	37	石丸建設【私設置】	9	小椋商店
13	上浮穴高校【県設置】	38	くま安心館【寄贈】	10	久万高原町社会福祉協議会(本所)
14	久万高原町立病院	39	グループホーム「サマリア」【寄贈】	柳谷地区	
15	父二峰診療所	40	グループホーム「メサイア」【寄贈】	1	久万高原町役場(柳谷支所)
16	国民宿舎「古岩屋荘」	41	まちなか交流館	2	四国電力面河発電所
17	久万スキーランド【私設置】	42	久万保健センター	3	消防団多機能車両(落出)
18	ふるさと旅行村【寄贈】	43	県中予地方局	4	中津公民館
19	畑野川歯科【県歯科医師会設置】	44	県林業センター	5	古味集会所
20	久万高原警察署	面河地区		6	吉村医院
21	四国電力久万営業所	1	面河小学校	7	柳谷小学校
22	久万こども園	2	おもご高齢者生活支援ハウス		
23	伊予銀行久万支店【私設置】	3	若山集会所		
24	松山市農協久万支所【私設置】	4	相ノ峰公民館【私設置】		

救 助 編



危険に立ち向かうオレンジの精鋭

救助活動体制の現状

(1) 救助活動状況の推移

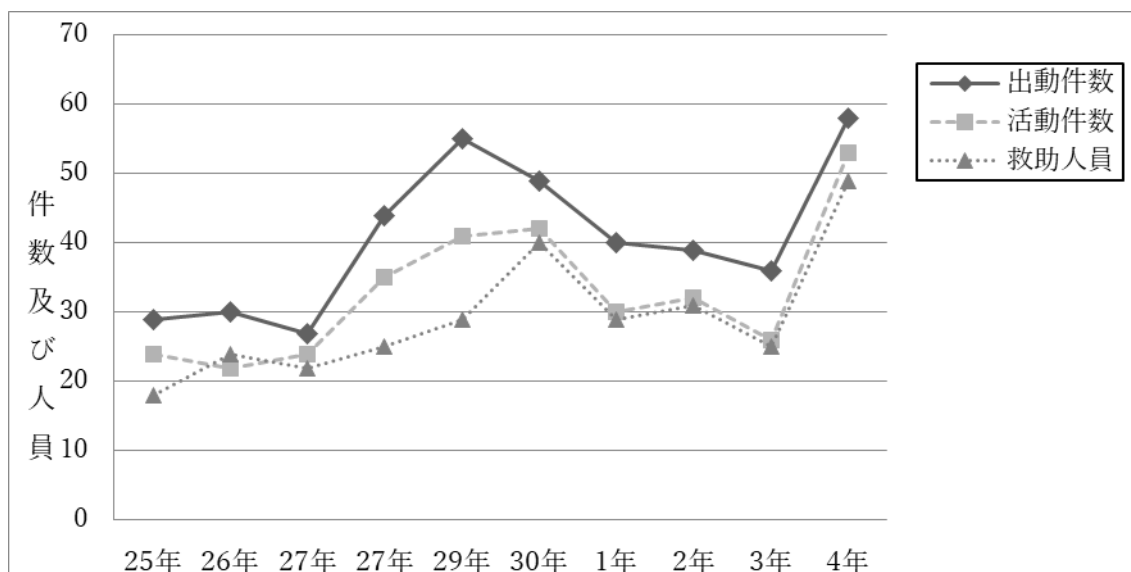
令和4年における救助出動件数は59件、このうち活動件数は54件、救助人員（救助活動により救助された人員をいう。）は48人となっており、前年よりそれぞれ増加している。

（第1表 第1図参照）

第1表 過去10年間の救助活動状況の推移

区 分 年 別	救 助 出 動 件 数		救 助 活 動 件 数		救 助 人 員	
	件数	増減率(%)	件数	増減率(%)	人員	増減率(%)
H25年	29	16.0	24	9.0	18	0.0
H26年	30	3.4	22	△9.0	24	33.3
H27年	27	△11.1	24	9.0	22	△9.0
H28年	44	62.9	35	45.8	25	13.6
H29年	55	25.0	41	17.1	29	15.9
H30年	49	△12.2	42	2.4	40	37.9
R 1年	40	△22.5	30	△39.9	29	△37.9
R 2年	39	△2.5	32	6.6	31	6.8
R 3年	36	△8.3	26	△23.0	25	△24
R 4年	59	63.8	54	107.6	48	92.0

第1図 救助出動状況と救助人員



(2) 事故種別状況

事故種別出動件数は、Dr.ヘリ支援が16件（27.2%）、次いで救急搬送応援が12件（20.4%）となっている。山岳事故は過去3年を比較すると（令和2年3件、令和3年8件、令和4年6件）と前年より若干減少している。

（第2表参照）

第2表 事故種別状況

救助出動活動件数 及び救助人員		事故種別										
		火災	交通事故	水難事故	建物事故	防災 支援 ヘリ	ヘド ク タ ー 支 援	搬 送 応 援	捜 索 活 動	山 岳 事 故	そ の 他	合 計
出動	件数	1	8	3	1	2	16	12	8	6	2	59
	構成比(%)	1.6%	13.6%	5.0%	1.7%	3.3%	27.2%	20.4%	13.6%	10.2%	3.4%	100%
活動	件数	1	7	3	1	2	15	10	8	5	2	54
	構成比(%)	1.8%	12.9%	5.6%	1.8%	3.7%	27.8%	18.5%	14.9%	9.2%	3.8%	100%
人員	人員数		8	3	1	2	15	10	2	5	2	48
	構成比(%)		16.3%	6.2%	2.0%	4.0%	30.7%	20.4%	6.1%	10.3%	4.0%	100%
過去10年の合計件数		38	50	13	1	10	73	82	49	67	23	406

（注）火災による出動・活動件数は、建物火災のみを計上。



(3) 事故種別出動人員及び活動人員の状況

事故種別出動人員及び活動人員数はDr.ヘリ支援が最も多く、次いで救急搬送応援となっている。

(第3表・第2図参照)

第3表 事故種別出動人員及び活動人員の状況

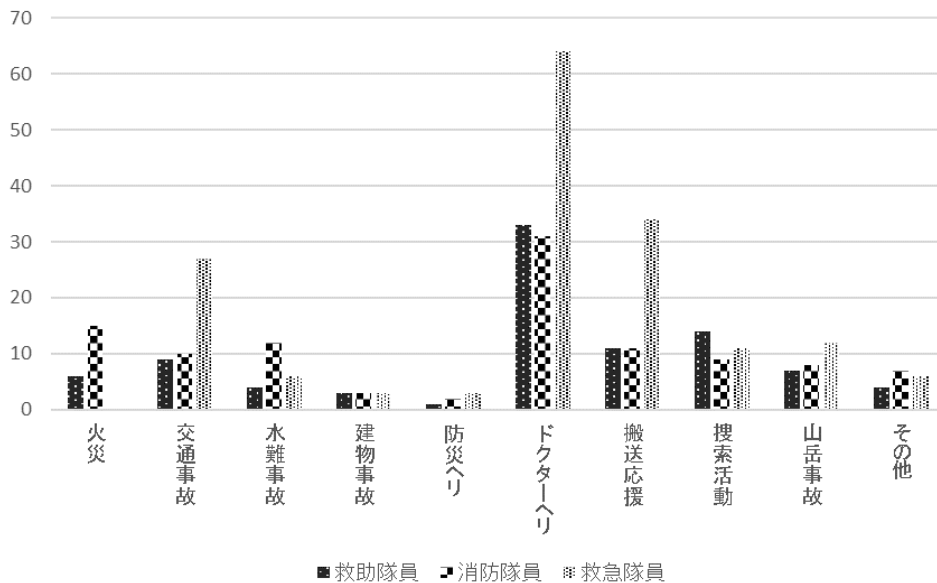
事故種別 出動人員 及び活動人員		火災	交通事故	水難事故	建物事故	支 防 災 へ り 援	ドク ター ヘリ 支 援	搬 送 応 援	捜 索 活 動	山 岳 事 故	そ の 他	合 計
救助隊員	出 動	6	9	4	3	1	33	11	14	7	4	92
	活 動	6	7	4	3	1	33	11	14	7	4	90
消防隊員	出 動	15	10	12	3	2	31	11	9	8	7	108
	活 動	15	9	12	3	2	29	9	9	8	7	103
救急隊員	出 動		27	6	3	3	64	34	11	12	6	166
	活 動		27	6	3	3	61	34	11	9	6	160
合 計	出 動	21	46	22	9	6	128	56	34	27	17	366
	活 動	21	43	22	9	6	123	54	34	24	17	353

(注)ア. 各欄上段の「出動」とは、救助活動を行うために出動した全ての人員を、下段の

「活動」とは、救助出動人員のうち実際に救助活動を行った人員を計上。

イ. 火災の出動及び活動人員は、現場に出動した消防・救急・救助隊員数を計上。

第2図 事故種別出動人員



(4) 主な救助活動

第 4 表 令和 4 年の主な救助活動

番号	種別	発生日	発生場所	出動人員
				救助人員
1	交通事故	4 月	久万高原町 露峰	12 人
				2 人
軽トラックが小谷へ約 3m 転落したもの。運転手は車内に取り残され、他 2 名が車両の下敷きとなった救助活動。				
2	水難事故	8 月	久万高原町 七鳥	7 人
				1 人
鮎捕り中に行方不明となった男性の捜索活動。				
3	交通事故	8 月	久万高原町 上黒岩	11 人
				1 人
普通自動車と軽トラックが衝突し、車両の損傷により脱出困難となった軽トラック運転手の救助活動。				
4	Dr へり支援	10 月	久万高原町 西谷 (消防署前 H P)	6 人
				1 人
現場活動中の救急隊から Dr へりの要請を受け、その Dr へり支援。				
5	山岳事故	10 月	石鎚山 登山道上	6 人
				1 人
登山道上で転倒し、背部の痛みを訴える傷病者を搬送。途中防災へりによりピックアップ。				
6	機械による事故	11 月	久万高原町 菅生	9 人
				1 人
運搬車で木材を搬送中、4m 下の道路に運搬車ごと転落し、両下肢が木材の下敷きとなった要救助者の救助活動。				

予 防 編



10年
おつかれさま

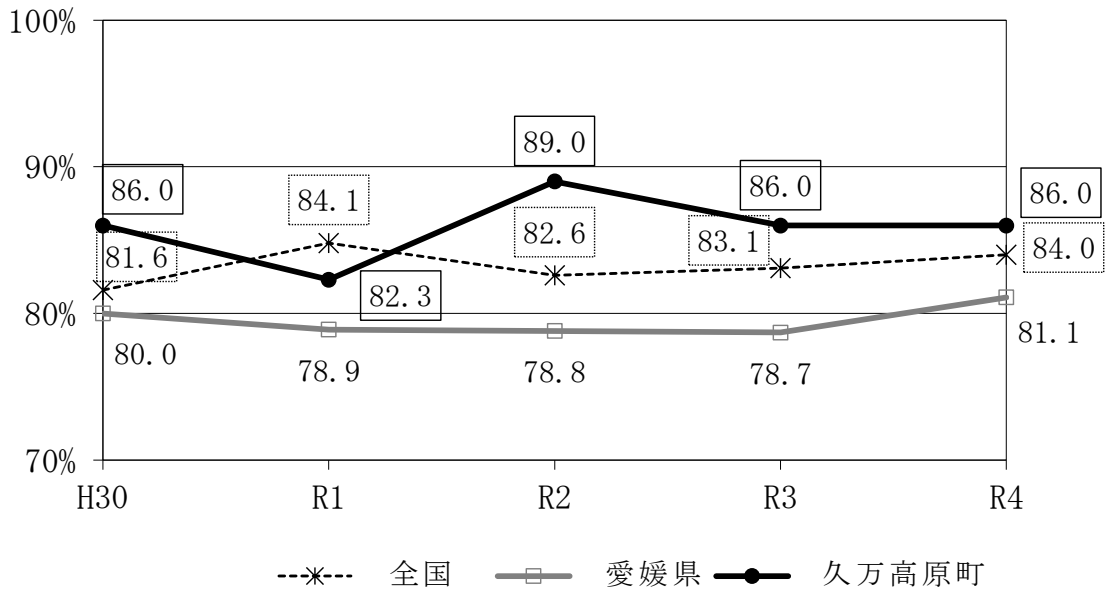


火災予防 私たちにできること！

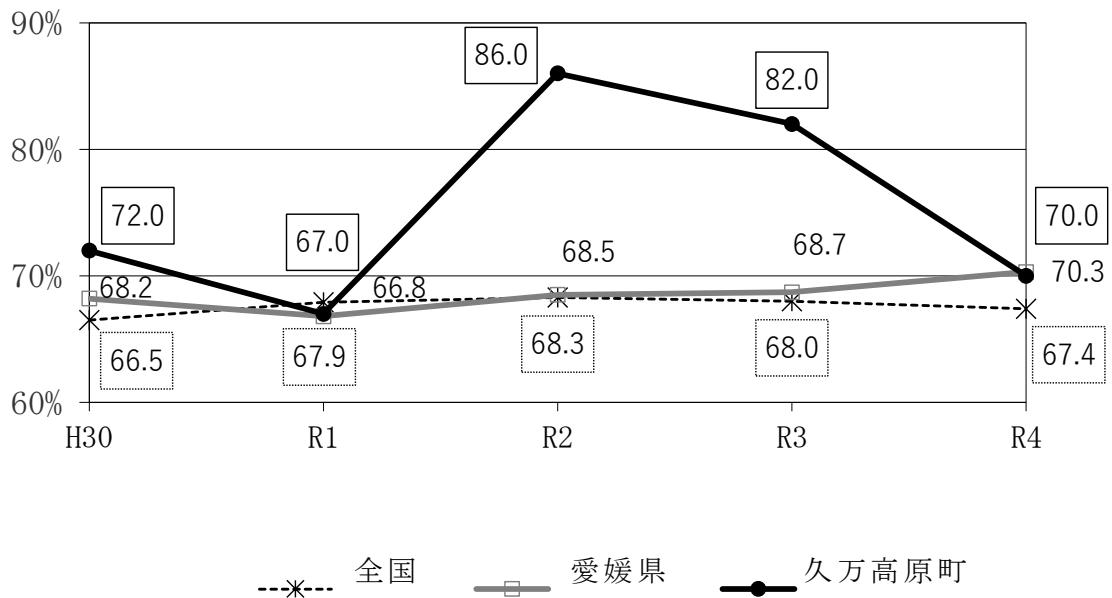
予防行政の現状

1. 住宅防火対策

第1図 住宅用火災警報器設置率の推移



第2図 条例適合率の推移



※ 第1図・第2図は標本調査のため、各数値は一定の誤差を含む。

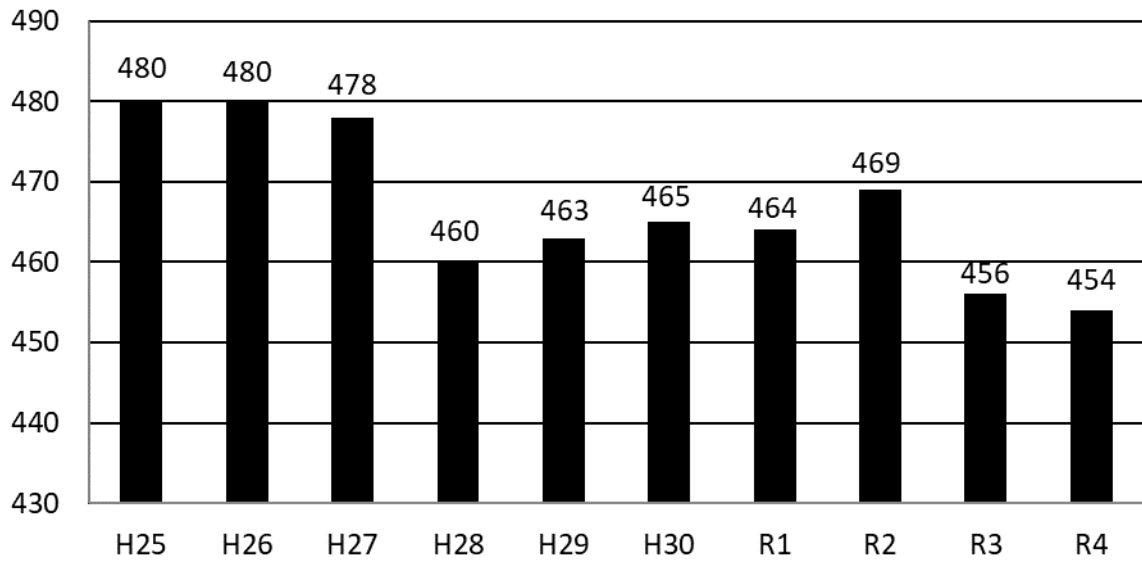
2. 防火対象物

第1表 用途・地区別防火対象物数

		久万地区			面河地区			美川地区			柳谷地区			合計			
		R3	R4	増減	R3	R4	増減	R3	R4	増減	R3	R4	増減	R3	R4	増減	
1	イ	劇場・映画館・演芸場等	1	1	-			-			-			-	1	1	-
	ロ	公会堂・集会場	19	19	-	6	7	1	5	5	-	5	5	-	35	36	1
2	イ	キャバレー・カフェ等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	遊技場・ダンスホール	1		-1			-			-			-	1	-	-1
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等			-			-			-			-	-	-	-
	ニ	カラオケボックス等			-			-			-			-	-	-	-
3	イ	待合・料亭の類			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	飲食店	4	3	-1			-			-			-	4	3	-1
4		百貨店・マーケット・その他店舗 展 示 場	10	9	-1	1	1	-			-			-	11	10	-1
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	10	9	-1	3	3	-	2	2	-	1	1	-	16	15	-1
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	25	25	-	3	3	-	7	7	-	5	5	-	40	40	-
6	イ	病院・診療所又は助産所	5	5	-			-	1	1	-			-	6	6	-
	ロ	老人短期入所施設・養護老人ホーム等	9	9	-			-			-			-	9	9	-
	ハ	老人サービス施設等	6	7	1	1	1	-	1	1	-	1	1	-	9	10	1
	ニ	幼稚園・特別支援学校	4	4	-			-	2	2	-			-	6	6	-
7		小中高等学校・各種学校等	21	21	-			-	9	9	-	2	2	-	32	32	-
8		図書館・博物館・美術館	6	6	-	1	1	-			-			-	7	7	-
9	イ	蒸気浴場等			-			-			-			-	-	-	-
	ロ	公衆浴場	1	1	-			-			-			-	1	1	-
10		車両停車場			-			-			-			-	-	-	-
11		神社・寺院・教会	5	5	-			-	1	1	-			-	6	6	-
12	イ	工場・作業場	36	35	-1	2	2	-	8	8	-			-	46	45	-1
	ロ	映画スタジオ等			-			-			-			-	-	-	-
13	イ	自動車車庫・駐車場	3	3	-			-	1	1	-			-	4	4	-
	ロ	飛行場の格納庫			-			-			-			-	-	-	-
14		倉庫	37	37	-	2	2	-	2	2	-	2	1	-1	43	42	-1
15		前各項に該当しない事業場	83	85	2	2	2	-	10	10	-	17	18	1	112	115	3
16	イ	特定の複合用途対象物	29	29	-	5	4	-1	8	8	-	4	4	-	46	45	-1
	ロ	その他複合用途対象物	12	12	-	1	1	-	3	3	-			-	16	16	-
17		重要文化財・重要美術品	2	2	-			-	3	3	-			-	5	5	-
18		アケード			-			-			-			-	-	-	-
19		市町村長の指定する山林			-			-			-			-	-	-	-
合 計			329	327	-2	27	27	-	63	63	-	37	37	-	456	454	-2

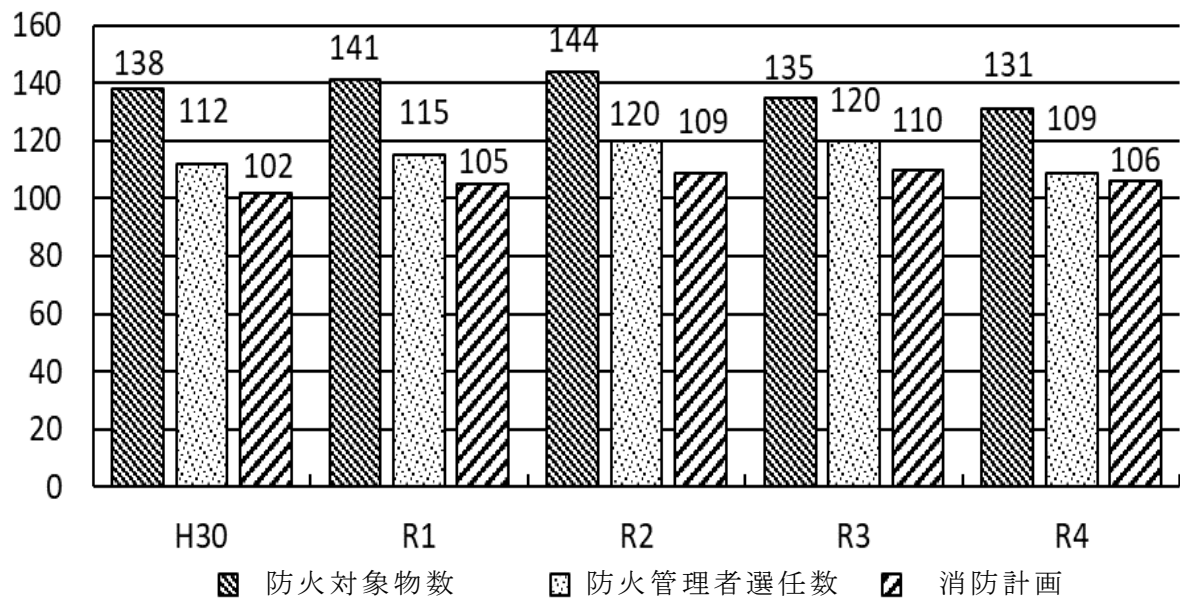
※消防法施行令別表第一に掲げる防火対象物のうち(1)項から(16)の(3)項までに掲げる防火対象物で延べ面積が150㎡以上のもの及び(17)項から(19)項に掲げる防火対象物が対象

第3図 防火対象物の推移

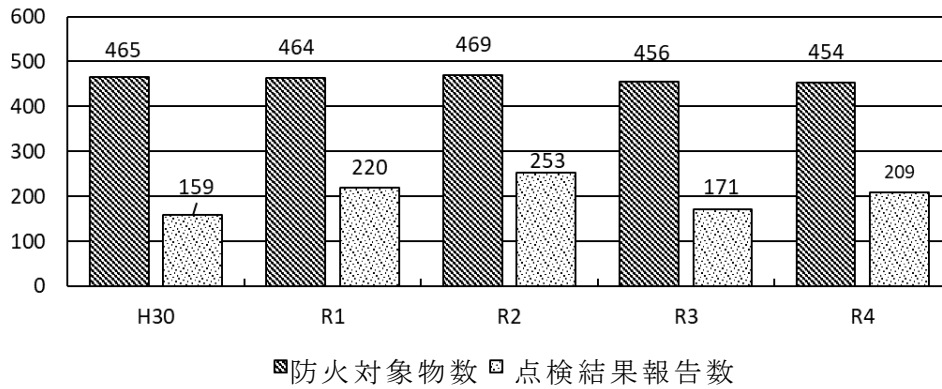


3. 防火管理実施

第4図 防火管理者選任・消防計画作成届出状況



第 5 図 消防用設備点検結果報告状況



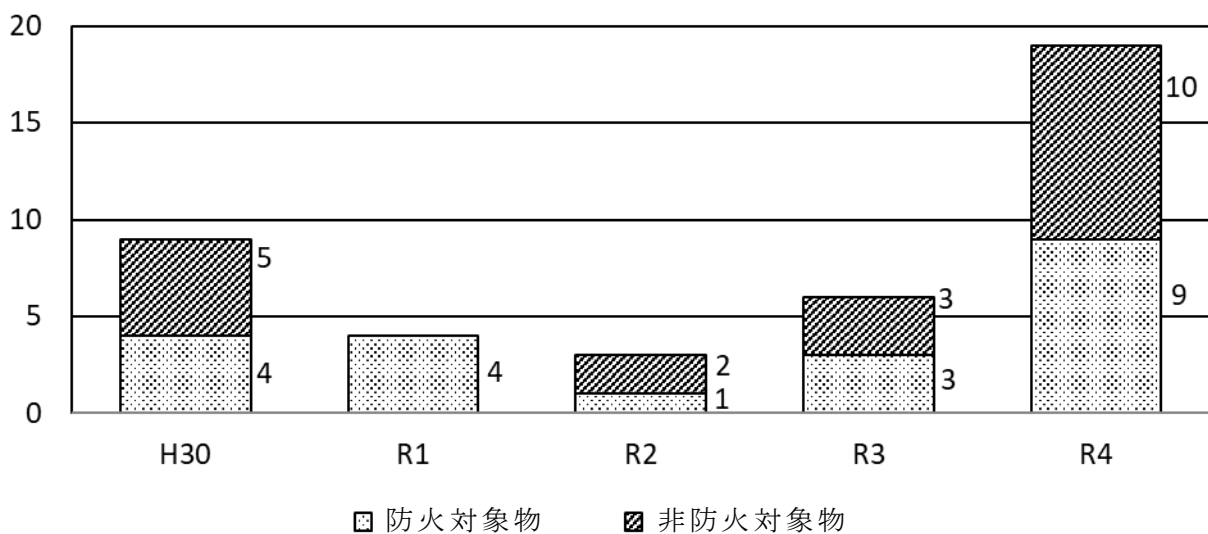
4. 立入検査実施

第 2 表 立入検査結果

	H30	R1	R2	R3	R4
対象物数	465	464	469	456	454
立入検査数	169	188	171	141	192
実施率	36.3%	40.5%	36.5%	30.9%	42.3%

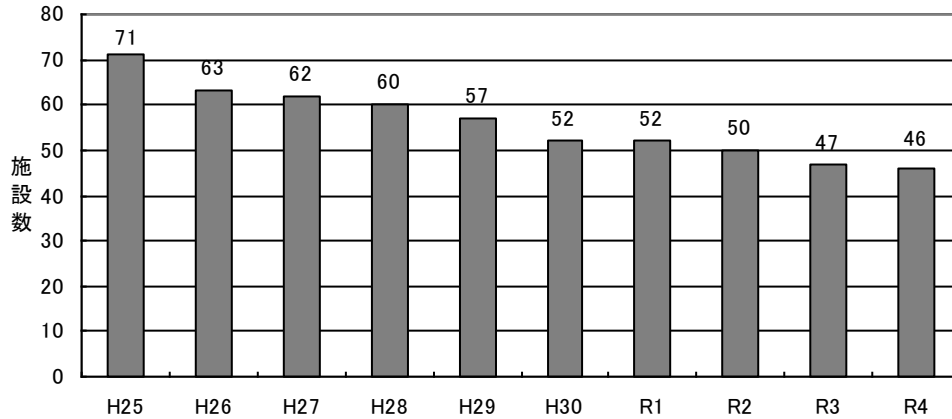
5. 消防同意

第 6 図 消防同意処理状況



6. 危険物

第7図 危険物施設数の推移



第3表 許可区分別・地区別危険物施設数

地区別		久万地区	面河地区	美川地区	柳谷地区	合計
貯蔵所	屋内	2				2
	屋外タンク	3		1		4
	屋内タンク	1				1
	地下タンク	7			1	8
	簡易タンク	2				2
	移動タンク	7 (-1)		2		9 (-1)
	屋外					0
取扱所	給油 [自家用]	10 [3]	1 [1]	4 [2]	1 [0]	16 [6]
	一般	3		1		4
合計		35 (-1)	1	8	2	46 (-1)

() 内は前年比

高齢者の防火対策

第1表 久万高原町における高齢化率の推移

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
久万高原町 総人口(人)	8,944	8,671	8,495	8,299	8,034	7,830	7,574
久万高原町 高齢者数(人)	4,123	4,046	3,994	3,911	3,865	3,811	3,750
久万高原町 高齢化率(%)	46.10	46.66	47.02	47.53	48.11	48.67	49.51
愛媛県 総人口(人)	1,410,463	1,399,453	1,387,133	1,374,887	1,362,859	1,350,801	1,334,438
愛媛県 高齢者数(人)	428,008	434,035	438,049	440,710	442,170	443,576	443,774
愛媛県 高齢化率(%)	30.35	31.01	31.58	32.05	32.44	32.84	33.26

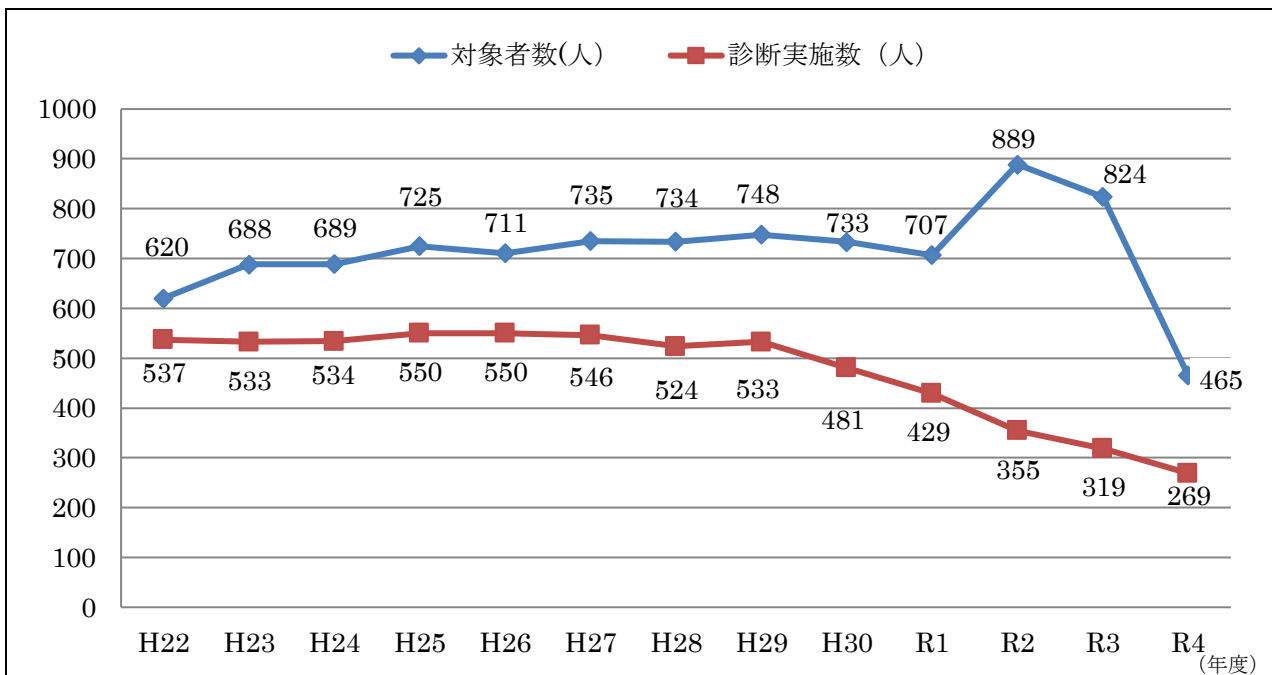
※愛媛県介護長寿課発行「高齢者人口等統計表」より抜粋

※高齢者の年齢は65歳以上

防災診断

1. ひとり暮らしのお年寄り宅防災診断

第1図 対象者数及び診断実施数の推移



※対象者はR3年度までは65歳以上だが、R4年度からは75歳以上に変更したもの

※R2、R3年度の対象者数増加は抽出方法の変更等によるもの

第2表 地区別訪問状況及び建物の状況

久万地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和4年度	63	193	256	133	52.0	132	1	107	24
令和3年度	146	304	450	162	36.0	157	5	120	40
令和2年度	176	380	513	192	37.4	186	6	154	35
令和元年度	109	254	363	207	57.0	198	6	166	35
平成30年度	115	264	379	237	62.5	228	7	197	33

面河地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和4年度	11	28	39	21	53.8	20	1	18	3
令和3年度	22	56	78	37	47.4	37	0	35	2
令和2年度	22	54	74	29	39.2	29	0	29	0
令和元年度	16	53	69	45	65.2	42	3	41	4
平成30年度	17	51	68	49	72.1	46	2	43	5

美川地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和4年度	34	81	115	81	70.4	79	2	70	9
令和3年度	72	135	207	85	41.1	85	0	71	14
令和2年度	74	133	204	99	48.5	97	2	83	16
令和元年度	61	118	179	114	63.7	109	4	99	14
平成30年度	61	127	188	138	73.4	133	5	120	18

柳谷地区	対象者区分(人)			在宅数・在宅率(%)		建築構造		建築年(S56)	
	男性	女性	合計	在宅	在宅率	木造	木造以外	以前	以降
令和4年度	14	41	55	34	61.8	33	1	29	5
令和3年度	34	55	89	35	39.3	35	0	32	2
令和2年度	40	64	98	35	35.7	33	2	30	4
令和元年度	31	65	96	63	65.6	61	2	55	7
平成30年度	29	69	98	57	58.2	56	1	51	5

※各地区の在宅数・在宅率の対象外数は除く

※各地区の建築構造・建築年不明数は除く

第3表 非常時の通報手段及び消火器

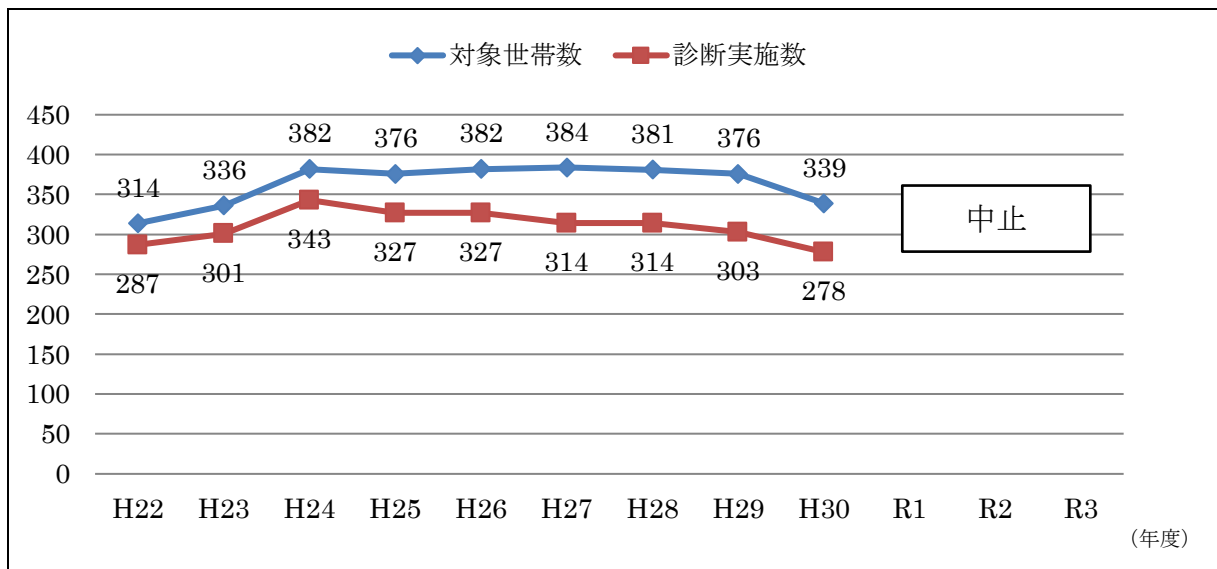
	通 報 手 段					消火器設置状況	
	固定電話	携帯電話	FAX	緊急通報システム	なし	設置あり (設置率)	不備あり
久万地区	116	88	7	2	4	82 (61.7%)	40
面河地区	19	13	2	2	0	14 (66.7%)	10
美川地区	75	41	0	3	1	52 (64.2%)	38
柳谷地区	29	23	0	0	0	25 (73.5%)	25
久万高原町	239	165	9	7	5	173 (64.3%)	113

第4表 風呂かまど

	かまど種類		燃料種類			焚口位置		不備件数
	純かまど	タル型	薪	灯油	兼用	屋内	屋外	
久万地区	11	14	11	3	11	6	19	1
面河地区	3	7	5	0	5	2	8	0
美川地区	28	8	29	3	4	7	29	3
柳谷地区	9	5	12	0	2	3	11	1
久万高原町	51	34	57	6	22	18	67	5

2. 後期高齢者夫婦世帯等防災診断

第2図 対象世帯数及び診断実施数の推移



※対象は75歳以上の夫婦世帯

※R1～3年度は新型コロナウイルスの影響により中止。

消防現況 令和4年版

発行日 令和5年3月1日

発行 久万高原町消防本部

〒791-1207

愛媛県上浮穴郡久万高原町下野尻甲33番地

TEL (0892) 21-2411 FAX (0892) 21-2656

久万高原町
イメージキャラクター

